アブダビ環境庁 EAD との猛禽類の保全活動と文化的協力の推進に向けた覚書の締結について

一般財団法人 INPEX JODCO 財団（以下、当財団）とアブダビ環境庁（以下、EAD）は、ハーリド・ビン・ムハンマド・ビン・ザーイド・アル・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下の後援の下、日本およびアラブ首長国連邦（以下、UAE）アブダビ首長国（以下、アブダビ）における猛禽類の保全活動および猛禽類に関わる文化的協力を共同で推進することについて合意し、本合意にかかる覚書の署名式を本年 10 月にアブダビで開催された国際自然保護連合（IUCN）主催の世界自然保護会議 2025 の機会に執り行いました。

本合意に先立ち、当財団では 2024 年から 2025 年にかけて、専門家の助言を受けながら日本国内でハヤブサの生息状況に関する情報収集や人工巣の設置を進めてきました。本合意はこうした取り組みを通じて得られた知見に基づき、両国のハヤブサをはじめとする猛禽類の保護活動を、共同調査や生息地保全、教育啓発を通じてさらに拡大することを目的としています。

具体的な取り組みとして、日本では人工巣の設置とモニタリングカメラによるハヤブサなどの猛禽類の繁殖行動や生息状況の調査を実施します。UAE ではアブダビ・ファルコン病院が有する鳥類医学および科学研究分野における高度な専門知識を活用して、ハヤブサなどの猛禽類のリハビリテーション活動を支援します。併せて、日本の専門家に対する研修を通じて、猛禽類の飼育に関する技術交流を促進します。また、両国における保全活動を通じた教育機関や地域社会への啓蒙活動を展開するとともに、鷹狩文化など猛禽類に関わる文化的活動においても連携を図ります。

猛禽類の中でもハヤブサは UAE の国鳥であり、EAD は UAE の初代大統領の名を冠した「シェイク・ザーイド・ファルコン・リリース・プログラム 」を通じて国内外でハヤブサの保全活動を継続的に実施しています。本合意は自然保護と生物多様性の保全におけるアブダビや UAE のリーダーシップに貢献するものであり、環境や文化を通じた日本と UAE の関係強化や相互理解の促進という当財団の理念を改めて示すものです。

当財団は、引き続き UAE の環境保護及び UAE と日本の環境交流に資する事業、並びに UAE と日本の文化の保存・発展及び UAE と日本の文化交流に資する事業を推進してまいります。

覚書署名式の様子

当財団代表理事 藤井洋（写真左）

EAD Secretary-General H.E. Dr Shaikha Salem Al Dhaheri（写真右）